立教 ホルトノキ

植栽にてひっそりとーヒルガオ

2023 年度　学友会入部届　集計

		中1	中2	中3	中学合計	高1	高2	高3	高校合計	総部員数	中学部長／キャプテン	中学副部長／副キャプテン	中学マネージャー	高校部長／キャプテン	高校副部長／副キャプテン	高校マネージャー
学芸部	英語部	1	3	1	5	0	0	2	2	7	（中高一緒に活動）			高3-4 前川 世良		
	演劇部	5	1	2	8	1	2	0	3	11	中3-3 中原 隼斗			高2-1 太田真季斗		
	科学部	3	3	3	9	3	4	1	8	17	中3-2 穴田 大耀			高3-1 東 拓優		
	写真部	18	14	6	38	2	7	4	13	51	（中高一緒に活動）			高2-4 神村 陸太	高2-1 比留間秀之	
	吹奏楽部	10	15	13	38	12	8	9	29	67	中3-4 西嶋 寛進	中3-1 山田 結介 中3-3 龍 泰瑛		高2-4 鳩岡 瑶佑	高2-1 高橋 駿 高2-2 大住 光希	
	数理研究部	5	10	12	27	15	10	9	34	61		中3-1 吉田 大航		高3－1 福島 史道		高3-2 岩崎 海大 高3-2 鮒田 滋治
	生物部	0	2	3	5	2	2	1	5	10	中3-3 半澤 源基			高2-4 生井 陽行	高3-2 原田 斎紀	高2-3 千葉 康平
	聖ポーロ会	0	0	0	0	5	2	4	11	11						
	地歴研究部	2	0	3	5	13	0	4	17	22	（中高一緒に活動）			高3-1 安藤 晴也		
	鉄道研究部	16	3	4	23	3	1	2	6	29	（中高一緒に活動）			高3-1 川澄 優太	高3-2 宇田川有真	高1-2 石塚壮一郎
	天文部	4	2	2	8	2	0	0	2	10	（中高一緒に活動）			高1-3 鈴木 敬仁		
	美術部	2	9	3	14	9	12	5	26	40	（中高一緒に活動）			高3-3 川村 理温	高3-3 黒田英士朗	
	文芸部	1	1	0	2	1	13	7	21	23	（中高一緒に活動）			高3-4 赤松 優	高3-1 辻村 幸多 高2-4 小林佳武以	
	放送研究部	4	1	16	21	3	3	7	13	34	（中高一緒に活動）			高2-4 小林佳武以	高3-1 辻村 幸多	高3-3 黒田英士朗
	クワイアー	4	4	2	10	0	4	5	9	19	中3-3和田 篤泰		（中高一緒に活動）	高3-3 山田 涼馬		
	合計(A)	75	68	70	213	71	68	60	199	412						
	(アコライト)	1	1	0	2	0	1	2	3	5	（中高一緒に活動）			高3-2 鮒田 慈治		
運動部	剣道部	1	4	3	8	1	1	1	3	11	中3-3 柴田 脩斗			高2-1 佐久間 仁		
	サッカー部	24	12	14	50	13	10	11	34	84	中3-4 相原 蒼	中3-3 塚本 龍熙	中3-4 吉田 晴	高3-3 薮木 大偉	高3-2 朝山 滉介 高3-4 伊藤 颯真	高2-3 中島 遼
	山岳スキー部	3	3	9	15	2	1	7	10	25	中3-3 的野 悠大	中3-2 岩渕 雅賢	中3-4 矢嶋 透大	高3-1 安藤 晴也	高3-2 大澤 聖也	高3-2 亀島 留偉
	水泳部	4	13	8	25	3	4	12	19	44	中3-4 長尾竜之介	中3-2 斉藤マイロ	中3-3 森 義樹	高3-2 石田 涼馬	高3-1 今田 誠吾	高3-3 村川 大樹
	卓球部	10	6	5	21	17	11	7	35	56	中3-2 朝倉 未来	中3-4 一山 遼翔	中3-1 愼 咲喜 中3-4 千葉 椋平	高3-2 白井仁	高3-2 中里柊平	高2-3 阿部剛登 高2-4 川崎哲弥
	庭球部	15	9	12	36	11	17	13	41	77	中3-1 青山 世那	中3-3 岡崎 大河	中3-3 小森 裕馬	高3-2 原 穣太朗	高3-4 佐藤 歩	高3-4 田口俊太朗 高3-3 山田 涼馬
	バスケットボール部	19	23	15	57	9	12	13	34	91	中3-1 櫻井 哲直 中3-2 飯島 健仁	中3-1 相良 大誠	中3-1 内尾 幸暉 中3-3 福井 悠太	高3-1 川本 晃大	高3-1 梅田 航生	高3-1 金子 献世 高3-3 木原 一晴
	野球部	14	11	14	39	9	7	18	34	73	中3-1 内田 眞人	中3-3 松崎 優一郎 中3-4 吉村 浩介		高3-3 島田 種英	高3-3 大味 昇太郎 高3-4 齋藤 澄人	
	陸上競技部	8	5	14	27	10	16	1	27	54	中3-3 小島 璃大	中3-1 野島 颯人	中3-2 平井 一真	高3-1 佐藤吏玖士	高3-1 川辺 陽也	高3-4 山内 琢生
	釣り同好会	7	14	5	26	1	4	4	9	35	（中高一緒に活動）			高3-3 黒田英士朗	高3-4 赤松 優	高2-4 西岡 大翔
	合計(B)	105	102	107	314	78	88	97	263	577						
	総計	180	170	177	527	149	156	157	462	989						

※兼部の生徒も含まれます。なお、三役の呼称は、部・会により異なります。

今月の聖句

“Moses said to God, “Who am I that I should go to Pharaoh and bring the Israelites out of Egypt?”
{and} “What if they do not believe me or listen to me and say, ‘The Lord did not appear to you’?”

Exodus 3:11 & 4:1

ONE of the mistakes we make when we contemplate stories from the Bible is that the characters we read about are full of motivation and unwaveringly follow the instructions God gives them. In fact, nothing could be further from the truth. Countless times, prophets have the greatest reluctance to follow what God has asked them to do. Reluctance is often a key ingredient in distinguishing who God chooses for his tasks, great or small. Sarah laughed when she heard she would bear a son; Abraham successfully barters with God to save the city of Sodom; Jacob is determined to remain away from the wrath of Esau and not return home; Gideon requires a series of signs to prove that God is serious about using Gideon as a new leader; Jonah flees from the Lord in an attempt to flee from responsibility. These are just a few examples of many characters who are reluctant to follow God's plan.

Even Moses, who is considered the highest prophet in the history of the Israeli people, needed to be convinced that he was chosen to be the leader of the task to bring the Israelites out of bondage in Egypt. God had commissioned Moses to become the ambassador of God to the court of the Egyptian Pharaoh. Moses reacts spontaneously by recoiling from the task. At the same time, he states his feelings that he is inadequate for the mission. Moses had a sudden and unexpected encounter with God out in the wilderness, while tending a flock of goats and sheep. So perhaps there was first mere disbelief that this was real. But when the task is explained, in reaction, Moses shows his reluctance. He eventually surrenders to God's overwhelming persuasiveness, but not before some signs of God's power are shown to him (like turning his staff into a snake and back again). Although Moses overcomes his hesitancy, he still did not feel worthy of or indeed capable of undergoing the mission to free the Israelites from Egypt. His last attempt to shirk responsibility is his claim to be unable to speak properly. By now, God is getting irritated by Moses' continued hesitancy and shows his anger. In reply to Moses' claim that he will not be able to properly convey His will, God tells him that Moses' own brother, Aaron, will accompany him on his mission and be a spokesman, the person who can be eloquent when needed. Finally, Moses does agree to the task of freeing the people from Egypt. God responds with a promise “to be with” Moses. This clearly means God would lend encouragement and restore confidence in the heart of Moses as he begins and then continues his mission.

What can we learn from this? God in the past has chosen many different people for certain tasks that he decides need to be addressed. Showing an immediate and positive reaction, a happy, agreeable, unwavering acceptance is extremely rare. Indeed, reluctance, hesitancy, or contemplation is the initial response of so many of those God has chosen that we can see this kind of characteristic, that is, being cautious or unwilling, as almost a necessary feeling. If that is the case, when we also feel reluctant to do things which are apparently important to us, especially after praying or contemplating, could this not be evidence that God's promise “to be with” is really happening to us?

Keep this in mind when reading about the prophets, or when you are feeling some kind of hesitancy in your prayers. God does promise “to be with” not just Moses and the other prophets, but also with you.

Chaplain Mark Stahl

中学一年便り

目に見えないもの

四月の入学式から早くも三か月が経ちました。入学してすぐのことを思い返すと、見慣れない同級生、新しい先生たちとの出会い、そして小学校までとは異なる生活リズム、様々な変化があり、もう夏休みが始まります。五月には千葉のキャンプ、そして戻ってきて初めての中間テストを経験したその二か月後には総合テストがあり、もう夏休みが始まります。

立教池袋中学校に入学してからの変化、と聞いてみんなはどんなことを思い浮かべるだろうか。朝の起床時間、制服の着用、電車での通学、タブレットを使った学習、部活への加入、などが挙がるかもしれません。これらの変化は外見的な特徴、数値化できるもの、新しい環境といった目に見えるわかりやすい変化であり、他者と比較しやすいものと言えます。でも、変化しているのは目に見えるものだけではないはずです。人との関わり方や物事に取り組む意欲といった内面に関することは数値化できず他の人と比べることも難しいので、気づきにくい変化だと思います。行動は目に見えますが、その背景にある気持ちの部分を直接目で見ることはできませんね。例えば、テストが返却されたときのことを思い返してください。自分の点数と周りの人の点数を比べて一喜一憂しているかもしれません。でも、大事なのは以前の自分と比べてどれくらい成長したのか、ということだと思います。以前の自分がとった点数からの変化という意味ではなく、学習への意欲という目に見えない部分がどう変わったのか。そういった目に見えない変化には見えるものよりも大事なことが隠れている気がします。

これから夏休みです。部活や旅行、趣味と様々な経験をすると思います。人それぞれ違う過ごし方があるでしょう。その経験が自身の変化のきっかけを与えてくれるはずです。それぞれにとって充実した夏休みになることを願っています。

（志水　元）

高校一年便り

「足る」に近づく

物事を楽しむ力がある、学んだ知識を別の場面で応用できる、周囲に自分がすでに理解できたことを教えることができる、友人へのあたたかいまなざしを持っている、周囲が思いつかないアイデアを出すことができる、物怖じしない、的確に問いを表現できる、あかるく挨拶ができる……、四月からこの学年に関わって感じた、「いい」ところである。

高校生は身体的に大人に近づく時期であるとともに、社会全体では大人のようなふるまいを求められる場面にも遭遇する。ただ、脳の発達において、感情の制御やリスクの判断をつかさどる部分はこの時期は未発達で、二十代前半にかけて完成していくと言われている。

「足りない」ものは際限なく探すことができる。でも、未発達な部分があるということは、未だ「ない」部分もあって当然である、ということだ。それと同時に、今は「足りない」だけで、徐々に「足る」に近づいていくということでもある。また、脳は経験や学習によって、その発達が促されるという。つまり、自身や感情の操作を意識的に行えば、それにしたがって脳に持続的なネットワークが構築され、自身の成長に繋がっていくということだ。

中期、後期と経るにつれ、「足りない」「いい」ところがみんなの新たな「いい」ところに、どんどん置き換わっていくことを見るのを、今から楽しみにしています。

（正村多佳子）

中学二年便り

成長

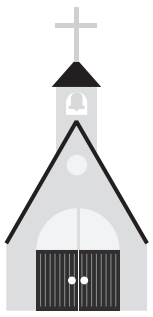
コロナ禍で日常生活がままならない状況がやっと解消され移動教室（清里）が事故無く行なわれました。祈りに始まり、祈りに終わるキャンプです。自然体験プログラム（道草ハイク、ナイトハイク）では盛り沢山の内容に堪能した生徒達のあどけない顔が印象的な三日間でした。日々の学校生活から離れ自然の中で伸び伸びした彼らを見て、三十年前立教に奉職して初めてのキャンプが清里だった事を思い出しました。

ポールラッシュがどのような思いでこの清泉寮を作ったのか、当時を知る伝承者からスライドを駆使して我々に説明してくださった感動が蘇ってきました。立教出身でポールラッシュの活動に感銘し、ＫＥＥＰ協会で就職した彼らと再会すると嬉しさが倍増します。今回は事前学習でポールラッシュについて勉強していったことで、一層清里を身近に感じてくれたのではないかと思っています。共同生活をし、仲間との連帯感、友情、信頼、様々な体験がこれからの学校生活に役立つと確信しています。

毎朝の朝読書もしっかり身に付き、落ち着きを持って一日のスタートを切る事はとても大切です。五分前行動も実践踏襲していってほしいと願っています。

一番多感な成長期で心と体のバランスが大変なこの二年生を学校と家庭で密に連携を取りながら彼らの成長を見守って行きたいと思っています。

（西澤宏佳）



高校二年便り

人生は未知だらけ

高校二年生は、ついに卒業論文に着手する時期が来ました。「テーマをもって真理を探究する」そして「共に生きる」、本校の教育目標がこの二つであることはご存じでしょう。ここでは前者の話をします。

私の好きな、哲学者の言葉をひとつ紹介します。河野哲也先生という、立教大学教授の言葉です。

「哲学とは、思い込みを愛するのではなく、思い込みを排して、ひたすら真理を愛して探求する行為です。哲学の本質は探求するという行為にあるのであって、知識を所有することにはありません。」

私も大いにそうなのですが、人間誰しも「恥」の意識を持っています。誤った知識をひけらかしては恥ずかしい。皆できていることができないとバレたら恥ずかしい。悪目立ちはしたくない、でも負けたくない、等々。これらは全く思春期特有のものではなく、むしろ、いい年した大人の方が、何かにしがみつこうと意固地になってしまうようです（実はそれこそ恥ずかしいのですが、大人は無自覚にそれをしてしまいます）。

その感覚を共有できる前提で話しますが、ぜひ皆さんには、学びにおける「恥」という障害物を、軽やかに飛び越えてほしいのです。

卒論の題材には、自分がある程度詳しい事柄を選びます。ただ、そこで最初から先入観や優越感に固められていては、学びから限りなく遠い姿勢のままです。学びとは、すでにある知識を潔く脱ぎ捨て、何度でも喜んで学び直すことに他なりません。

皆さんと出会って以来、私がずっと魅力を感じている所は、素直さと優しさです。二つの教育目標を見る度、ひいき目なしに「良い生徒たちだなあ」と思います。その素直さを発揮して、より深く楽しい探究の世界へ踏み込んでみてください。

（杉原　望）

中学三年便り

あとはご自由に

本年度は学年付きにも関わらず中学三年生の授業を持たないという不思議な関わり方をさせてもらっている。そのため君たちが今どのような国語の勉強をしているのかよく分からないのだが、私が今持たせて頂いている高校一年生で最近扱った内容から、君たちへのメッセージとして簡単に紹介させてもらおうと思う。

我々が今生きている現代は「近代」という「自由な個人」が成立した時代の延長線上にあるのだが、極端な例として、近代化する以前の伝統的な社会においては「生まれ」が即ち「人生そのもの」を規定するものだったそうだ。言わば、武士の子は武士にしかなれない、ということである。近代化以降、個人には機会が与えられ思うような人生を選ぶことができるようになった。しかしその一方で、自分が「何者であるか」選ばなければならないという新たな重圧が生じてきて……と、掻い摘むと以上のような内容だが、「人生を選ぶ」というのはまさに今君たちが直面している大きなテーマではないだろうか。

中学三年生というと、かつて公立の普通の中学校に通っていた私にとって、まさに人生の岐路に立たされている気がしていた。学校では、頻りに大真面目なトーンで進路選択の話をされ（決まって「義務教育ではないのだから」と言っていた）、友人は急に「理数科の学校受けてみようかな」なんて言い始め、自分の人生を自分で選ぶという現実をまざまざと突き付けられた。

立教池袋のような学校にいると高校生になることが既定路線のように感じられると思う。しかしながら、立教池袋の高校生になるということも自分で「選んで」決めることなのだ。君たちは中学校を卒業すれば社会で働けるし、あるいは他校を受験して新たな世界に出ていくこともできる。そんな中で、君は自分の将来のために何を選択するべきなのだろうか。他ではなく、なぜそれを選ぶのだろうか。「だってずっと立教だから」なんてのは勿体ない。

世の中の中学三年生が自分の将来について本気で考え始める夏、このような学校だからこそ自分の生きていく道についてしっかり考えてみてはいかがだろうか。

（高井祐紀）

高校三年便り

ラストイヤー

高校生活のラストイヤーも、もう実質半分が終わりました。何気ない日常生活、学活、礼拝、授業…学校で経験するすべてに対するカウントダウンがもうスタートしています。

ここで今一度、皆さんに問いかけたいことは、「何のために学校に来ているのか」ということです。コロナ禍を経験し、大抵のことはオンラインでもできることをよくわかっている皆さんだからこそ、なぜわざわざ池袋まで電車に乗って来て集団で授業をするのか、自分なりの答えを探してみてほしいと思います。

残り少ない学校生活、スマホゲームやアルバイトに費やすのではなく、高校生の今しかできないことを見つけ、精一杯楽しみ、取り組んでみてください。

この夏休み、最後の夏に向けて懸命に部活動に勤しむ人もいれば、九月に提出の卒業論文に精を出す人もいることでしょう。中高六年間の集大成を、納得のいく形で終えられるように、全力でやってみましょう。何事においても本気で取り組んだ人にしか見えない景色があるはずです。

（中川太郎）